

第3回合併調査委員会 開催

2月21日、総合体育館ミートイングリムで、第3回合併調査委員会が開催されました。この日の委員会では、前回の委員会で資料提出の要請があった、新潟県長期総合計画、新潟広域市町村圏計画、総務省ホームページ、新潟市と黒埼町の合併の概要、新潟県市町村合併促進要綱、横越町第四次総合計画等の資料について、事務局から説明を受け、審議を行いました。

各計画での横越町の位置づけ

県の長期計画の中では、「新潟県中核都市圏」として、自然と共生できる百万都市圏域を、横越町を含めた新潟市を中心に形成していくものとして位置づけられています。



新潟県市町村合併促進要綱のバターンでは、新潟市を中心に横越町を含め4市6町村が政令指定都市へ移行し、県土発展の牽引役を担うとされています。(関係あり)

は、圏域の将来像を「世界にはばたく水と緑の地方中核都市圏」とし、横越町は都心周辺部として、都心を補完する都市機能の配置と良好な住宅地の拡大、生産性の高い農地の確保や自然環境の保全を図る地区として位置づけられています。また、政令指定都市を目指すため住民合意に基づき、可能なところから市町村合併を推進すると記述されています。

また、総務省ホームページでは、市町村合併のメリットや国の今後の取り組み等が紹介されています。(町ホームページからリンクできます) <http://www.soumu.go.jp/>

委員会での意見

事務局の説明の後で、委員から次のような意見が出されました。

- ・難しい行政用語を使わずに、分かりやすく説明してもらいたい。
- ・合併については、住民の意向を第一に考えてもらいたい。
- ・税金や使用料といった生活に直結する問題の検討も必要ではないか。
- ・分科会方式等により委員会を分けて行う方法も考えられるが、意見が出やすいように議題をしばって、全員の参加の中で審議を進めたほうが良いのではないか。
- ・国も合併による財政支援を色々考えているが、町の財政的な見通しも考えなければならぬ。

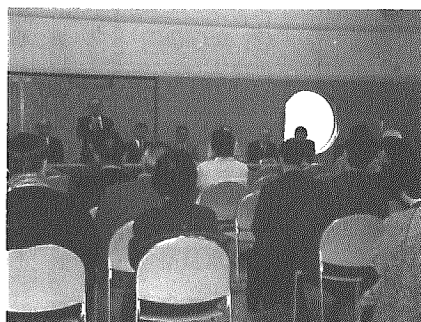
これらの意見を踏まえ、旧黒埼町への視察や他の市町村や県の動向等を調査しながら、市町村合併について審議を進めていく予定です。

2地区で町政懇談会 開催

町や地域の課題などについて話し合う町政懇談会が、3月4日はサンウイング横越(川根谷内地区)で、3月11日は農村環境改善センター(沢海地区)で開催され、両日とも町長ほか各担当課長等が出席、地元からは区長さんをはじめ住民の方々が多数出席して、次のことについて議論が交わされました。

川根谷内地区

- ・平成13年度の町の予算内容
- ・米の生産調整などの農業問題
- ・資源ごみ回収などの環境問題
- ・通学路の除雪
- ・高齢者の福祉対策
- ・合併問題



川根谷内地区町政懇談会 (3月4日)

沢海地区

- ・合併問題(新潟都市圏の将来展望、県内の市町村合併の議論、横越町の合併への動き)
- ・集落排水の整備
- ・介護保険の施設利用や保険料
- ・農業の今後の見通し



沢海地区町政懇談会 (3月11日)

きます。

市町村合併に関するご意見やお問い合わせは、総務課までお気軽にお寄せください。

シリーズ① 横越町を取り巻く環境と、近隣市町村との結びつき

県は、2月に「新潟県市町村合併促進要綱」を策定し、公表しました。この要綱に基づいた横越町の将来像について、広報よこしでは、今月号から6月号まで紹介していきます。

- ・5月号 新潟圏域の合併パターン
- ・6月号 市町村合併の効果と合併に対する住民の不安への対応

横越町民の生活圏と

行政の共同処理

交通・情報通信手段の発達や経済活動の進展に伴い、住民の日常生活圏は市町村の区域を超えてますます拡大しています。当町も例外ではなく、通勤・通学、通院、買い物などに周辺市町村へ出かける機会が多

や住民の日常生活圏の拡大、少子・高齢化の

くなつてきています。また、ごみ処理や福祉といった行政サービスも新潟市など周辺市町村と共同で、消防・救急業務は、亀田町に業務を委託しており、様々な面において、広域化による共同処理が行われています。

市町村合併の必要性

市町村は、教育、福祉、消防、廃棄物処理など住民生活に密着したサービスの提供を行っておりますが、さらに、地方分権の推進により、国と地方の役割が見直され、自らの判断と責任のもとに個性豊かな魅力ある地域づくりと行政サービスを行うことが求められており、その役割は一層重要となっております。しかし、情報通信技術の発達

進行や多様化する住民ニーズなど、行政を取り巻く環境は急激に変化しており、厳しい財政状況の中で市町村が取り組まなければならぬ課題は、以前より増大しています。特に本県の高齢化は、全国平均を上回って急速に進行しており、高齢社会に備えた施策の充実が切実な問題となっております。

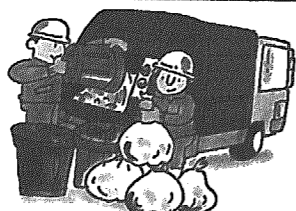
横越町の人口と高齢人口の割合の推移

	国勢調査人口 (実績)			将来人口推計		
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成27年	平成37年
全人口の推移	9,444人	10,009人	10,795人	11,082人	12,086人	12,890人
65歳以上の高齢人口の推移	14.2%	16.5%	-	18.5%	21.6%	25.6%

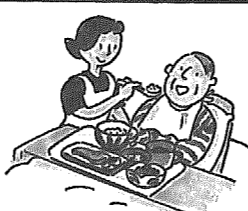
定分野の事務については、一部事務組合などの共同処理が既に幅広く行われていますが、総合的な行政主体として、人材を確保し、地域の課題を包括的に解決するためには、意思決定や事業実施などを単一の団体で行うことができる市町村合併が効果的とされています。

広域行政の推進、とりわけ市町村合併により「広域的な観点からの地域づくり・まちづくり」や「行政サービスの維持・向上」、さらに「行財政基盤の強化」などを進めることが必要です。

いろいろなサービスを、市町村が共同で行っています



みなさんの健康を守り、まちをきれいにするために、病院を建てて運営し、家から出るごみを集めて処理しています。



日々の暮らしの助け合いのために、お年寄り・子ども・体の不自由な方などの生活の手助けをしています。

県の示した

市町村の合併パターン

県では、地域において将来を見据えた活発な議論が行われることを期待し、市町村や住民が合併を具体的に検討する際の参考・目安となるよう、現在11ある市町村を21に統合する合併パターンを提示しています。

なお、5月号では当町を含む新潟圏域の合併パターンについて紹介しています。

横越町民の周辺市町村と結びつきの状況

- 通勤・通学率
 - 町内 42.4%
 - 新潟市 35.6%
 - 亀田町 11.2%
 - 新津市 4.2%
- 通院依存率
 - 新潟市 51.7%
 - 亀田町 35.0%
 - 新津市 5.0%
 - 水原町 5.0%
- 購買率
 - 新潟市 62.4%
 - 亀田町 15.6%
 - 町内 10.4%
 - 新津市 5.2%

広域行政の状況

- 新潟地区広域清掃事務組合(新潟市、亀田町、横越町で構成)では、ごみ処理施設、し尿処理施設等の運営を行っています。
- 新津市小須戸町横越町亀田町介護認定審査会では、介護保険制度による、介護認定審査を行っています。
- 四市中東蒲原老人福祉施設事務組合(加茂市、新津市、五泉市、白根市、中蒲4町、東蒲4町村で構成)では、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、病院等の運営を行っています。
- 新潟県中東福祉施設事務組合(新津市、五泉市、白根市、中蒲4町、東蒲4町村で構成)では、知的障害児施設、知的障害者更生施設等の運営を行っています。